

バイオマス利活用施設の概要

作成日：平成 19 年 8 月 31 日

作成者：(財)日本システム開発研究所

<p style="text-align: center;">施設のシステムフロー</p>	<p>【施設名称】 J A 能美水稲共同乾燥施設（なでしこ刈り取り機）、河北潟ゆうきの里</p>
	<p>【事業主体】 J A 能美</p>
	<p>【所在地】 石川県 能美市、河北郡内灘町</p>
	<p>【運転開始年】 平成 17 年（2005 年）</p>
<p>原材料および利用量</p>	<p>もみ殻、家畜排せつ物</p>
<p>生産物（種類）</p>	<p>牛ふんもみ殻堆肥</p>
<p>利用方法</p>	<p>稲乾燥施設から排出されるもみ殻を堆肥化施設に提供、その堆肥を農地へ利用</p>
<p>導入目的・経緯</p>	<p>畜産農家の少ない地域において、もみ殻の提供から堆肥の供給・運搬・散布まで広域的に行える受給調整システムの実証のため</p>
<p>設備仕様</p>	<p>稲乾燥施設、堆肥化施設</p>
<p>稼働状況</p>	<p>-</p>
<p>経済性関連データ</p>	<p>平成 17 年度バイオマスの環づくり (総事業費)：900 千円 内交付金 450 千円)</p>
<p>導入効果</p>	<p>堆肥の需給調整システムを確立することで、これまで不十分であった堆肥の供給が可能となり、もみ殻・牛ふんを農地へ還元する資源循環が図られる</p>
<p>運営上の課題</p>	<p>堆肥の需要・もみ殻の排出は特定時期に集中しており、ピーク時においても十分な供給量がストックされるか、通年的に堆肥の需給バランスを確保されるかが課題</p>
<p>備考・参考資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 17 年度北陸管内におけるバイオマス利活用の取組事例集 ・北陸農政局 HP (H17 年度北陸管内におけるバイオマス利活用取組事例)